

窓辺をかえる、明日が変わる。

# TOSO

## 株主・投資家のみなさまへ

### 第73期中間期のご報告

2012年4月1日から2012年9月30日まで



#### トップインタビュー

コアビジネスでの収益基盤の強化と、  
成長分野への積極投資へ



#### New Product 新製品紹介

遮熱性と採光性を兼ね備えた  
エコスクリーン「**コルトエコ**」



#### 特集

グループ企業紹介  
介護関連用品の開発・販売

#### フジホーム株式会社

# トーソー株式会社

証券コード：5956





平素は格別のご支援を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

おかげさまで、当社は2012年9月30日をもって第73期（2012年4月1日から2013年3月31日）の中間期を終了し、増収・増益を達成することができました。

ここに事業の概況と今後の諸施策につきましてご報告いたします。

今後とも皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

大槻保人

## コアビジネスでの 収益基盤の強化と、 成長分野への積極投資へ

### Q 建設・住宅市場の現状と、 当中間期の業績はいかがでしたか？

建設市場の中でも、特に住宅着工の動向は当社の業績に大きな影響を与えます。2006年度に126万戸あった新設住宅着工戸数は、耐震強度偽装問題に端を発する建築基準法の改正や、リーマンショックによる世界的な景気低迷などにより2009年度には77万戸にまで急減しました。その後は住宅エコポイントや住宅ローン金利優遇といった政府による住宅関連の景気刺激策の後押しなどにより緩やかな回復基調が続いています。当中間期におきましても団塊ジュニア世代を中心

に住宅購入が進み、また震災後の復興需要等の下支え等によりほぼ前年同期と同水準で推移しましたが、中・長期的には少子高齢化に伴う世帯数の減少など新設住宅市場は厳しい環境となることが予測されます。

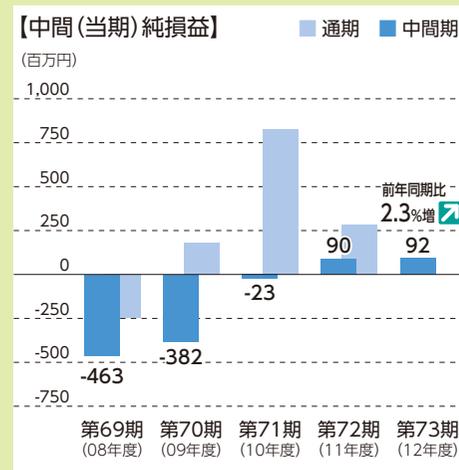
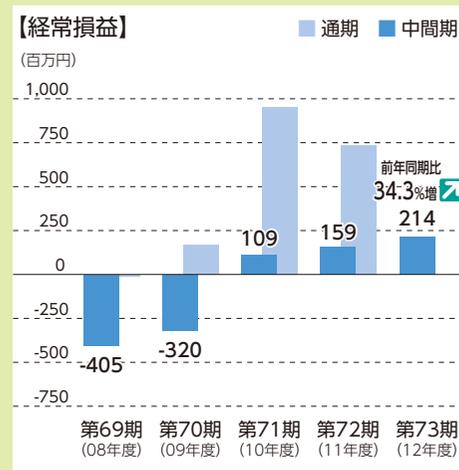
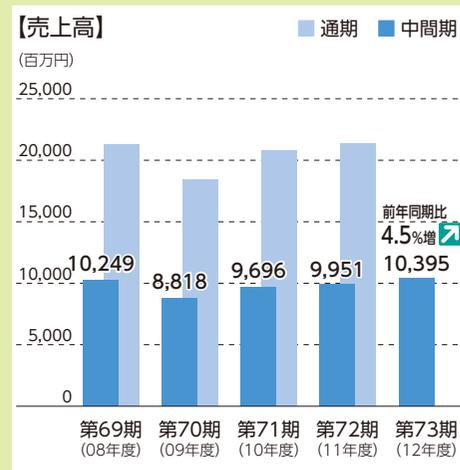
こうした事業環境の下で、当中間期の売上高は前年同期を4.5%上回り、4期連続の増収となりました。近時のインテリアトレンドや省エネなどの社会的需要を取り込んだ新製品の投入と、それに合わせた全国的な展示会開催などのプロモーション活動や、ブラインド類を中心とした新規開拓活動を積極的に展開したことが成果に繋がったと感じています。

利益面につきましても、営業活動による販促費用の増加などがあったものの、売上高の増加により増益となりました。

### Q 新しい中期経営計画の進捗状況をお聞かせください。

2012年度より、新たに4ヶ年の中期経営計画をスタートしておりますが、国内外の経営環境全般が先行き不透明な状態

## 連結決算ハイライト



であり、目指すべき収益水準などについては今しばらく吟味が必要だと思えます。しかしながら、当社が持続的に成長していくための活動については、的確に、且つスピーディーに展開していく予定です。コアビジネスである室内装飾関連事業については、「デザイン」「機能」など多様化する消費者ニーズや「省エネ」「安心」「安全」など環境に配慮した新製品を継続的に開発することで競争力の強化を図ります。また、一層の生産性向上によって固定費比率を低減し、財務体質の改善に取り組むことで長期的に新設住宅が漸減しても確実に収益向上が図れる体制作りを目指していきます。

成長分野として期待の大きい海外市場については、営業戦略や社内組織などの基本政策を見直しました。以前から活動強化をおこない着実に実績を積み上げてきた高級ホテルや大型オフィスなどの物件納入に加え、経済成長により世界市場における重要度を増していくアジアを中心とした新興国などの主要エリアについても、マーケティング全般に踏み込んだ活動を展開し、拡大する消費需要を確実に取り込んでいきたいと考えています。

また、省エネ志向の高まりで需要が増加しているオーニング（日除け）等の販売活動を強化することでリフォーム市場の開拓を継続するとともに、オフィスやホテル、病院、学校といった住宅以外の窓周り製品の獲得にも積極的に取り組んでいます。このほか、本格的な高齢社会を迎えこれからますます需要が高まっていく介護関連用品の販売においても、商品領域の拡大や営業力の強化を継続的におこない、新設住宅の動向に依存しない事業基盤の構築にも努力していきます。

### 中期経営計画基本戦略 2012-2015

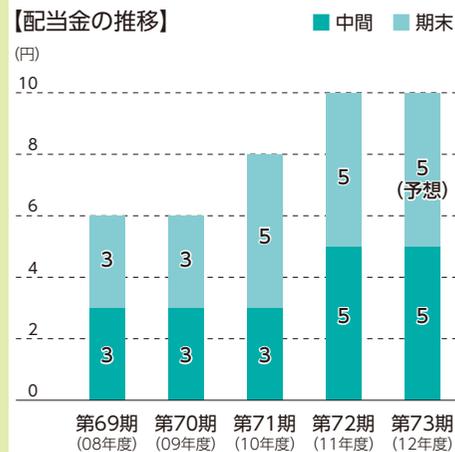
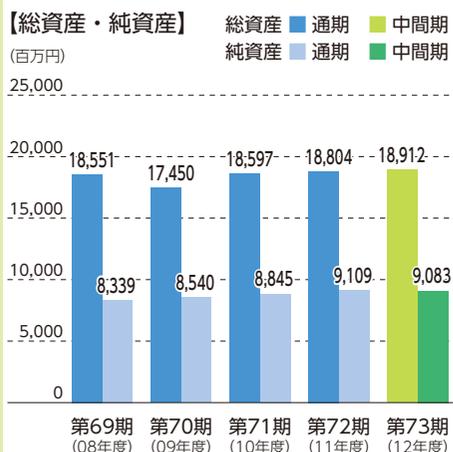
商品開発力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●販売政策と一体化した差別化商品開発の強化</li> <li>●海外売上拡大に向けた開発・生産・販売体制の構築</li> </ul>
海外販売拡大 営業活動深耕	<ul style="list-style-type: none"> <li>●積極的マーケティング活動による売上の拡大</li> <li>●非住宅分野、ストック住宅および新規事業領域への活動深耕</li> </ul>
製造部門強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原価低減活動の強化と的確なサプライチェーンの構築</li> </ul>
財務体質改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●棚卸資産の適正化と生産性向上による収益力の強化</li> <li>●固定費比率の低減による成長持続型の財務体質への改善</li> </ul>

## Q 通期の見通しは いかがですか？

世界経済の低迷や為替、株価、エネルギー問題など懸念材料はあるものの、復興需要の本格化や消費税率引き上げ前の影響を受けた事業環境となるものと思われれます。幸いカーテンレールやブラインド類の新製品もお客様から評価をいただいております。今後も消費者の目線に立った商品開発により、魅力ある商品を積極的に提案していきたいと思えます。また、新規開拓活動などの営業強化や原価低減・生産性向上なども継続的に推進し、効率を重視した経営体質強化を図ることで現在の増収・増益基調を継続していきたいと考えております。

### 2013年3月期 通期業績見通し

金額		前期比
売上高	22,500百万円	▲ 5.3%増加
営業利益	1,000百万円	▲ 28.4%増加
経常利益	900百万円	▲ 22.5%増加
当期純利益	400百万円	▲ 41.5%増加



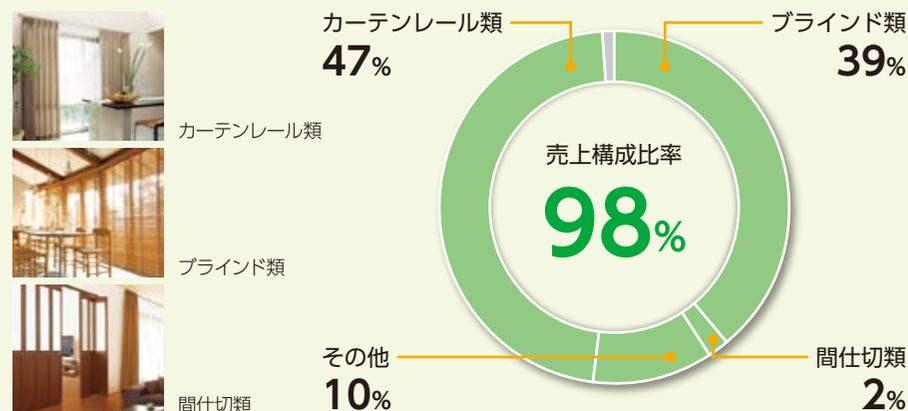
## Q 最後に株主の皆様へメッセージを お願いいたします。

今後も企業の成長性を持続するために事業領域の拡大にむけた投資活動を積極的に展開する一方で、株主様への安定的な利益還元も継続していきます。中間期の配当金につきましては、前中間期と同様の5円といたしました。また、投資機会を拡大し、弊社株式の流動性を高めるために、2012年4月2日より、「単元株式を1,000株から100株」に変更いたしました。

これからも投資家の皆様に魅力を感じていただける企業になれるよう努力してまいります。皆様からの一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

## 室内装飾関連事業 カーテンレール国内シェアNo.1

### 事業内容



国内シェアNo.1のカーテンレールを中心に、ブラインド、ロールスクリーン等の窓装飾品や間仕切りなどを開発・製造・販売しています。

カーテンレール類はベーシックな製品からデザイン性の高いもの、開閉音が静かなものや電動カーテンレールなどトップメーカーならではの多彩な品揃えをもちます。また、病院のベッド周りに使用する間仕切りレールや絵画などを吊すピクチャーレール等の開発もおこなっております。

ブラインド類は横型ブラインドやロールスクリーン、ローマンシェード（たくし上げカーテン）や縦型ブラインドなど、デザインと機能にこだわった製品を総合的に開発しております。

**売上高** 102億 2百万円(前年同期比 4.3%増)

**セグメント利益** 2億 28百万円(前年同期比 16.6%増)

### 当中間期の営業概況

当社の業績に大きく影響する新設住宅着工戸数はほぼ前年同期と同水準で推移したことに加え、6月発売の新製品を中心とした展示会を全国で開催するなど、積極的な拡販活動を展開したことにより売上高は前年同期を上回りました。

商品面では主力のカーテンレールで近時のインテリアトレンドを取り入れながら、子供部屋などにも提案できるカーテンレール「コーディー19」の発売や、窓とカーテンの隙間を塞ぐことで省エネ効果を高める用品類などの品揃え強化をおこないました。ブラインド類では遮熱性と採光性を兼ね備えたエコスクリーン「コルトエコ」などを発売いたしました。また、遮熱・断熱効果の高い製品を纏めたカタログ「窓から省エネ」により省エネや節電といった需要を取り込む提案なども積極的におこないました。

セグメント利益は、販売促進活動の強化による費用などが増加したものの、売上高が好調に推移した結果、増益となりました。

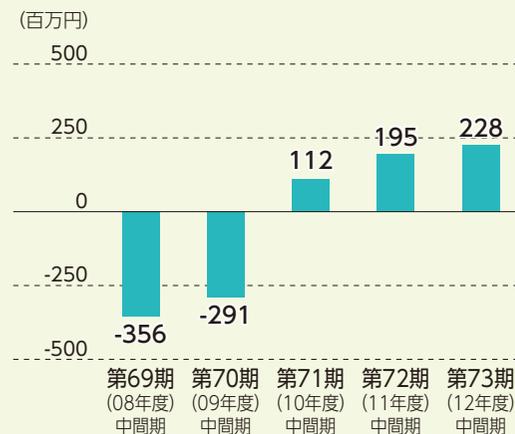


「窓から省エネ」カタログ

#### 【売上高】



#### 【セグメント利益】



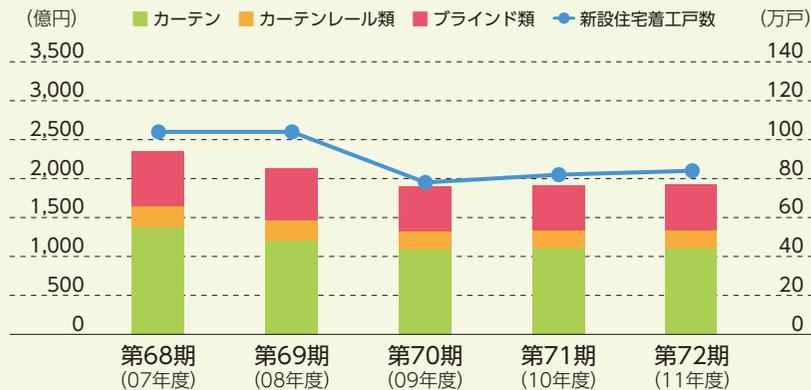
## 窓装飾品市場の推移

カーテン、カーテンレール類、ブラインド類を合計した窓装飾品の推定市場規模は2011年度で1,923億円※（卸売ベース）です。これらの製品の売上高は住宅着工や、オフィスや病院など非住宅施設の建設動向に影響を受けます。近年の市場規模は縮小傾向ですが、最新データの2011年度は新設住宅着工戸数の増加や東日本大震災の復興需要などから若干の市場回復となっております。

商品の品目に大きな変化は見られませんが、近年は木製ブラインドや縦型ブラインド、また、消費者の省エネ意識の高まりにより遮熱効果の高いブラインドなど、ブラインド類の多様化が進んでいます。

	第68期 (07年度)	第69期 (08年度)	第70期 (09年度)	第71期 (10年度)	第72期 (11年度)
カーテン (億円)	1,375	1,202	1,092	1,106	1,094
カーテンレール類 (億円)	271	256	231	227	235
ブラインド類 (億円)	699	669	575	571	595
窓装飾品合計 (億円)	2,345	2,127	1,897	1,903	1,923
新設住宅着工戸数 (万戸)	103.5	103.9	77.5	81.9	84

※データ出典：(社) 日本インテリアファブリックス協会



## その他の事業

### 事業内容



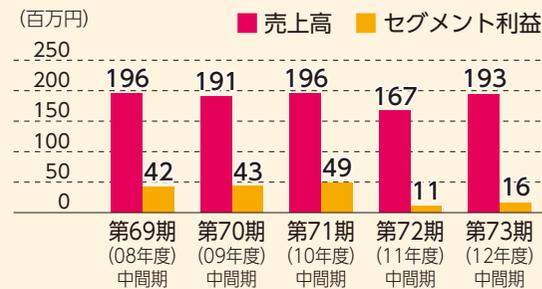
ステッキを中心とした介護関連用品を開発、販売しております。そのほか、物流業務受託や損害保険契約の代理業務をおこなっております。

2010年度グッドデザイン賞を受賞したステッキ「クレバー」

### 当中間期の営業概況

売上高 1億93百万円(前年同期比 15.2%増)

セグメント利益 16百万円(前年同期比 35.3%増)



ステッキを中心とした介護関連用品の販売が好調に推移しました。また物流業務受託等の事業もグループ内の物流業務の増加等により好調に推移したことから、売上高、セグメント利益とも前年同期を上回りました。

※事業セグメントについて：第72期(11年度)よりセグメントの一部を変更し、従来「その他の事業」に含まれていたプラスチックチェーン等の仕入販売を「室内装飾関連事業」に変更しました。

## 遮熱性と採光性を兼ね備えた エコスクリーン「コルトエコ」

### 適度な透け感で室内を明るく保ちながら日射熱を遮断する省エネスクリーン

2012年6月発売の新製品について商品開発のキーパーソンに詳しく聞きました。



(商品開発本部 前野研司)

### ベーシックシリーズ「コルト」に 遮熱スクリーンを追加

2007年より発売しているベーシックシリーズ「コルト」は、“おしゃれかわいい”をコンセプトに、流行に左右されないベーシックなデザインと豊富なカラーから選べる楽しさを実現した人気シリーズで、多くのブラインド類にて商品展開をしております。今回、近時の省エネ・節電志向の高まりを受け、窓周りメーカーとしての省エネを提案したいとの思いから、遮熱機能をもつスクリーン「コルトエコ」を追加いたしました。

#### 遮熱糸とは…

ポリエステル糸に特殊な金属の粉を練り込んだもの。生地における遮熱機能は、ほとんどが太陽光の中の赤外線領域の反射によるもので、近時は裏面がピカピカ光る糸を使用したカーテンやアルミコーティングされたスクリーンなどが発売されていますが、見た目や生地の質感が損なわれてしまう欠点がありました。遮熱糸は練り込まれている特殊な金属の粉が赤外線を反射するので、生地本来の風合いを残したまま、遮熱機能を得ることができるのです。

### 遮熱性と採光性を兼ね備えたエコスクリーン

一般的な遮熱スクリーンは遮光性が高いスクリーンや、裏面にアルミコーティングされた光沢のあるものが多く、それらは遮熱効果が高い反面、“透け感がなく、部屋が暗くなる”“窓の外から見るスクリーン裏面の見栄えが悪い”などの不満の声がありました。



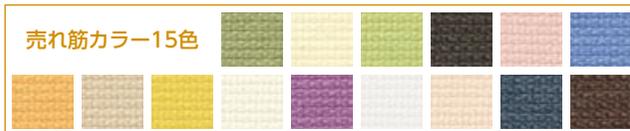
一般的なスクリーン 遮熱スクリーン「コルトエコ」

「コルトエコ」はスクリーンに遮熱糸を使用することで、遮熱だけでなく、スクリーン裏面も表面同様に、きれいな仕上がりを実現。適度な透け感もあるので、室内を明るく保ちながら強い日射をはね返すことができる節電スクリーンです。

### 売れ筋カラーから厳選した15色の品揃えと リビングなどの大きな窓に対応したメカ

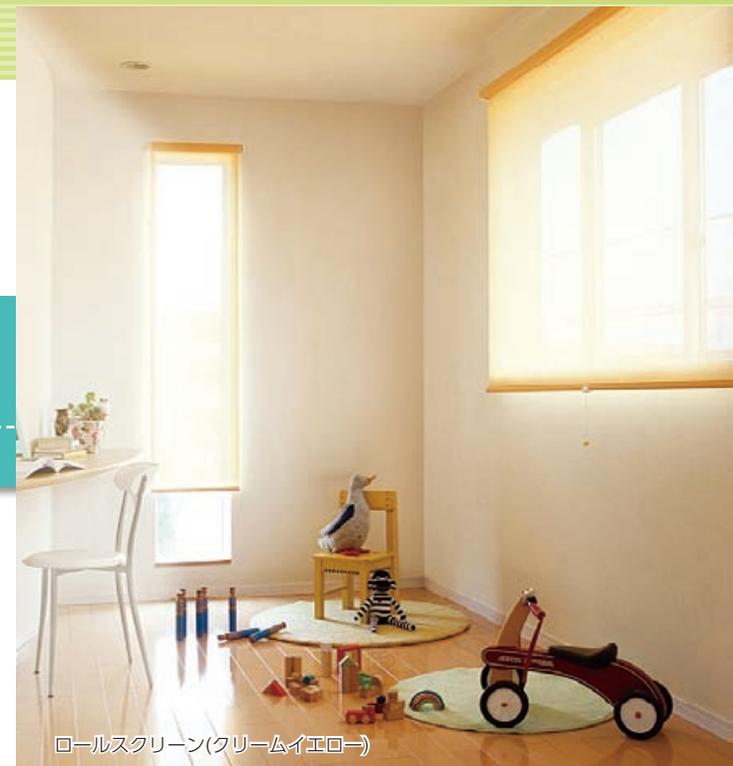
人気シリーズ「コルト」の売れ筋カラーから15色を採用し、全色とも洗濯できるウォッシュブルタイプにすることも可能です。また、リビングなどの大きな窓にも取り付けができるように、ロールスクリーンとパーチカルブラインドに対応しております。

#### 売れ筋カラー15色



### トレンドやニーズを取り込んだ 商品開発の強化

価値観が多様化している中で、インテリア製品のトレンドやニーズを的確に取り込むことは難しくなっていると思います。今後も徹底したマーケティング活動を実践し、お客様により満足いただけるような商品開発をおこなってきたいと思います。



ロールスクリーン(クリームイエロー)



パーチカルブラインド(アップルグリーン)

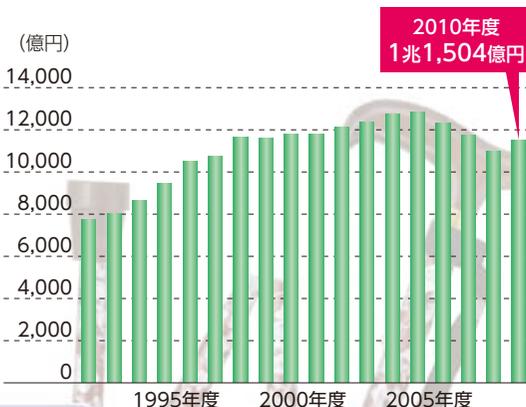
# 介護関連用品の開発・販売 **Fuji Home** フジホーム株式会社

日本は現在、65歳以上の人口が全体の20%以上を占める「超高齢社会」となっており、2040年には3人に1人が65歳以上になると言われています。当然ながら介護関連用品に対する重要性は高くなり、その需要もますます拡大していくものと思われます。

当社グループ企業であるフジホーム株式会社は、1972年にコアビジネスである室内装飾関連事業の領域拡大を目的として設立されましたが、確実に高まりつつある高齢者人口の増加を背景に、1993年より「ウェルビーイング」というブランドを立ち上げ、介護関連用品の販売をスタートさせました。その後、グループにおける成長分野への本格的な取り組みとして、介護関連用品の開発・販売事業に特化した新設会社として2011年4月、新たなスタートを切りました。

当初は、海外からの輸入品を中心にステッキ、手すり、トイレ用品などの品揃えをおこない、主にホームセンターへ販売していました。2000年からスタートした介護保険制度により、介護ショップや介護卸などといった専門ルートが確立されたことで、現在は、得意とするステッキを中心にホームセンターなどへの販売は継続しながら、専門店向けに給付金やレンタルの対象となる介護関連用品の開発・販売を強化しています。また、バリアフリーなどの高齢者向け住宅改修の分野へ手すりや段差スロープ等の販売および取付工事をおこなうなど、着実にその事業領域の拡大を続けています。

【福祉用具の市場規模推移】



※グラフは経済産業省が定める福祉用具(狭義)の市場規模

今後は、ステッキなどを中心に品揃えの拡充を図りながら販売領域を一層拡大させ、介護関連用品専門企業としての認知度を高めていくとともに、グループの主力事業である室内装飾に近い領域では、長年培ってきた商品開発力などを最大限に活用することでシナジー効果を発揮していきたいと考えています。



## トピックス 「第39回 国際福祉機器展(H.C.R)2012」に出展



2012年9月26日(水)～28日(金)に東京ビッグサイトで開催された、世界の福祉機器を一堂に集めたアジア最大の福祉機器展「国際福祉機器展(H.C.R)2012」に出展しました。

今年で39回目となるこの展示会は、参加企業による

ブース展示のほか、社会保障制度についての国際シンポジウムや、介護福祉関連の各種セミナーといったさまざまなイベントも執りおこなわれ、3日間で10万人を超える方が来場されました。

フジホーム株式会社のブースは、介護保険による貸与の対象となる、4点で体重を支える軽量タイプの専門店向けステッキ「カーボン4」「ハイブリッド4」や、インテリアにマッチするモダンデザインの「スタンド手すり」などの新製品を中心に展示をおこない、多くの来場者から好評をいただきました。

### 国際福祉機器展(H.C.R)概要

- 【主催】 全国社会福祉協議会 保険福祉広報協会
- 【後援】 厚生労働省 経済産業省 総務省 国土交通省  
東京都 海外参加国大使館
- 【会場】 東京国際展示場「東京ビッグサイト」東展示ホール
- 【参加企業】 15ヶ国 548社・団体
- 【展示品数】 20,000点以上

### <フジホーム株式会社 会社概要>

- 会社名：フジホーム株式会社
- 資本金：3,500万円
- 代表者：渡辺 文生
- 事業内容：介護用品の開発、販売
- 所在地：東京都中央区新川2-12-15 ヒューリック八丁堀ビル7F
- URL：http://www.fujihome.co.jp/

**5月 新製品展示会**  
**「トーソーウインドウファッションフェア2012」を開催**

インテリア業界関係者向けの展示会「トーソーウインドウファッションフェア2012」を全国37ヶ所で開催しました。6月発売の新製品を中心に、窓周りの省エネ対策製品や近日発売予定の未発表製品などを展示。来場者からも「窓周りの最新トレンドスタイルが分かる」と好評をいただいております。

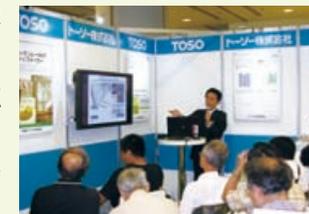
また、同時に開催したインテリアセミナーでは「プロが教えるインテリア写真撮影テクニック」をテーマにした講演をおこない、今後の窓周りビジネスに役立つ実践的な情報を提供いたしました。



**8月 個人投資家向け展示会**  
**「IRフォーラム2012東京」へ出展**

東京・青山のTEPIA（テピア）で開催された個人投資家向けのIR展示会「IRフォーラム2012 東京」（主催：株式会社ツバルの森）に出展しました。当日は1,500名以上の方々会場を訪れ、当社はブース内にて会社説明会を実施し、事業内容や中長期展望をご説明させていただきました。

ご来場いただいた方々からのご意見を参考にしながら、今後も有意義な情報を発信できるようなIR活動をおこなってまいります。



**9月 第39回 国際福祉機器展(H.C.R)2012へ出展 (P6で紹介)**

2012年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

**6月 新製品発売**

カーテンレール類では、近時のインテリアトレンドを取り入れながら、子供部屋などにも提案できるカーテンレール「コーディー19」の発売や窓とカーテンの隙間を塞ぐことで省エネ効果を高める用品類などの品揃え強化をおこないました。ブラインド類では遮熱性と採光性を兼ね備えたスクリーン「コルトエコ (P5で紹介)」などを発売いたしました。



**8月 DIY産業向け展示会「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2012」へ出展**

幕張メッセにて開催された国内外のDIY・ホームセンター関連商品を一堂に展示し、業界の活性化を促進する展示会「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2012」に出展しました。

当社は遮熱ロールスクリーンなどの環境配慮製品を展示し、一般の方がご自身で取り付けが可能なDIY向け窓周り製品の提案をおこないました。



**9月 カーテンメーカーの合同発表会**  
**「with Curtains 2012」を開催**

日本を代表するカーテンメーカー9社の新製品情報や最新のインテリアトレンドを、インテリアコーディネーターなどに紹介する発表会を東京国際フォーラムにて開催しました。

カーテンレールのトップメーカーとして、これからはカーテンと共にインテリアを楽しむ文化をもっと日本に広めていきたいと考えております。



# 株主優待制度のご案内／株主配当のお知らせ

## 株主優待

当社では、株主様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資魅力を高め、株主数の増加を図ることを目的に株主優待制度を設けております。

## 3,000円相当の商品を贈呈！

ギフトカタログに掲載された旬の食材や生活用品等35品目の中から、お好みの品物1点をお選びいただけます。



※対象株主様

毎年3月末日現在の株主名簿に記載された1,000株以上保有の株主様を対象といたします。

※2012年3月末日を権利確定日とする株主優待は、2012年9月末日をもってお申し込みの受付を終了しております。

## インドネシア植林へ405,000円を寄付

2010年度より株主優待に「インドネシア植林への寄付」を設けております。お申し込みいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。株主優待にお申し込みいただかなかった方々の優待相当金額と合わせて、2012年度は合計405,000円を弊社インドネシア共和国子会社での植林事業に寄付させていただきます。

植林活動は2012年12月を予定しており、実施報告は「第73期のご報告」にて掲載させていただく予定です。

今後も株主の皆様と共に環境保全活動に努めてまいりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



### インドネシア植林への寄付金による活動実績

累計本数 約7,400本 (2012年3月末現在)

※株主の皆様による寄付および当社植林活動による実績を含みます。

## 株主配当

### 配当方針

当社は、上場企業として株主の皆様への利益還元は重要な責務であり、安定的な配当の継続を重視しつつ業績および今後の設備投資計画等を勘案して利益配分をおこないたいと考えております。

2013年3月期の中間配当金につきましては、前中間期と同額の5円とさせていただきます。また、期末配当金につきましても同様に5円、中間配当金とあわせた年間配当金は10円を予定しております。

今後も収益力向上と財務体質の強化を図り、利益還元に努めてまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ■1株あたり配当金の推移

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
中間配当金	3円	5円	5円
期末配当金	5円	5円	5円(予)
合計(年間)	8円	10円	10円(予)

# 財務諸表（連結）

中間連結貸借対照表（単位：百万円）

	前期末 2012年3月31日 現在	当中間期末 2012年9月30日 現在	増減(△)
<b>資産の部</b>			
<b>POINT1</b> 流動資産	14,705	14,852	146
固定資産	4,098	4,060	△38
有形固定資産	3,219	3,209	△9
無形固定資産	201	172	△29
投資その他の資産	678	678	0
資産合計	18,804	18,912	107
<b>負債の部</b>			
流動負債	6,859	7,864	1,005
固定負債	2,835	1,963	△871
<b>POINT2</b> 負債合計	9,694	9,828	133
<b>純資産の部</b>			
株主資本	9,267	9,307	40
資本金	1,170	1,170	0
資本剰余金	1,370	1,370	0
利益剰余金	7,154	7,195	40
自己株式	△427	△428	0
その他の包括利益累計額	△186	△252	△66
その他有価証券評価差額金	36	22	△14
繰延ヘッジ損益	△18	△66	△48
為替換算調整勘定	△205	△208	△3
少数株主持分	28	28	0
純資産合計	9,109	9,083	△25
負債純資産合計	18,804	18,912	107

## POINT

### POINT1 流動資産 前期末より146百万円の増加

売上高の季節変動の影響により、受取手形及び売掛金は875百万円減少し、現金及び預金は480百万円増加しました。また、売上高の増加に伴い、商品及び製品が378百万円増加しました。

### POINT2 負債合計 前期末より133百万円の増加

棚卸資産の増加などにより、支払手形及び買掛金が101百万円増加しました。有利子負債については社債の償還などにより15百万円減少しました。

中間連結損益計算書（単位：百万円）

	前中間期 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	当中間期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで	増減(△)
売上高	9,951	10,395	443
売上原価	5,675	6,000	325
売上総利益	4,275	4,394	118
販売費及び一般管理費	4,070	4,149	78
<b>POINT3</b> 営業利益	204	244	39
営業外収益	39	41	1
営業外費用	84	71	△39
経常利益	159	214	54
特別利益	0	1	0
特別損失	6	2	△3
税金等調整前中間純利益	153	212	59
法人税、住民税及び事業税	45	161	115
法人税等調整額	18	△41	△59
法人税等合計	64	120	55
少数株主損益調整前中間純利益	89	92	3
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	0	1
<b>POINT4</b> 中間純利益	90	92	2

### POINT3 営業利益 前年同期比39百万円の増加

売上原価率の上昇や販売費及び一般管理費の増加はあったものの、売上高が443百万円増加したことにより、売上総利益も118百万円増加した結果、増益となりました。

### POINT4 中間純利益 前年同期比2百万円の増加

経常利益は54百万円の増益となりましたが、税務上の繰越欠損金解消による税負担が55百万円増加しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書（単位：百万円）

	前中間期 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	当中間期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで	増減(△)
営業活動によるキャッシュ・フロー	792	758	△33
投資活動によるキャッシュ・フロー	△246	△152	94
財務活動によるキャッシュ・フロー	△173	△129	43
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	4	12
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	364	480	115
現金及び現金同等物の期首残高	3,097	2,849	△247
現金及び現金同等物の中間残高	3,461	3,330	△131

### POINT5 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いによる支出が52百万円あったほか、リース債務の返済により59百万円の支出がありました。

# 会社概要 (2012年9月30日現在)

会社名 トーソー株式会社

英文社名 TOSO CO.,LTD.

本社所在地 〒104-0033  
東京都中央区新川一丁目4番9号

電話 03(3552)1211(代)

設立 1949年9月

資本金 11億7,000万円

主な事業内容 インテリア製品の開発、製造、販売  
国土交通大臣許可内装仕上工業業(般-23)第16989号  
ISO9001認証取得:JQA-QM5920製造本部/商品開発本部  
ISO14001認証取得:JQA-EM2416つくば事業場/水海道事業場

従業員数 948名(連結)、576名(単体)

役員

代表取締役社長	大槻 保人
代表取締役 専務取締役	中村 潔
常務取締役	松尾 守
取締役相談役	大槻 秀人
取締役	林 淳之
取締役	久保田 英司
取締役	花田 正孝
取締役	森 兼康博
取締役	藤田 洋一
常勤監査役	山井 潤一
監査役	加瀬 兼司
監査役	久保 英幸

(注) 監査役加瀬兼司氏および監査役久保英幸氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

# 株式情報 (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数 30,000,000株  
発行済株式の総数 11,897,600株  
株主数 993名

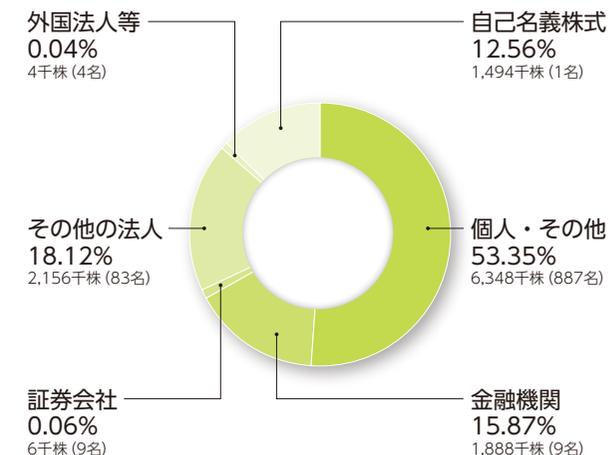
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大槻 保人	1,515	12.73
トーソー取引先持株会	963	8.09
トーソー社員持株会	599	5.03
株式会社みずほ銀行	458	3.85
十和運送株式会社	354	2.98
株式会社三菱東京UFJ銀行	338	2.84
第一生命保険株式会社	222	1.86
株式会社東京都民銀行	216	1.82
株式会社常陽銀行	215	1.80
大槻 秀人	204	1.72

(注1) 持株数は千株未満を、持株比率は小数点第2位未満をそれぞれ切り捨てて表示しております。

(注2) 弊社は自己株式1,494千株を保有しております。

所有者別分布状況



# 事業拠点一覧

営業拠点	札幌支店、仙台支店、さいたま支店、東京支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店 営業所16ヶ所
国内工場	つくば工場(茨城県)、水海道工場(茨城県) 兵庫工場(兵庫県)
物流拠点	流通センター(茨城県)、流通センター(兵庫県)、札幌配送センター、福岡配送センター
ショールーム	トーソープラザ(東京都)
連結子会社	サイレントグリス株式会社 トーソーサービス株式会社 フジホーム株式会社 トーソー流通サービス株式会社 トーソー商事株式会社 P.T.トーソー・インダストリー・インドネシア 東装窓飾(上海)有限公司 トーソーヨーロッパS.A.S.



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
単元株式数	100株(2012年4月2日より1,000株から100株に変更いたしました)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でおこなっております。
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。
ホームページアドレス	<a href="http://www.toso.co.jp">http://www.toso.co.jp</a>
上場取引所	東京証券取引所市場第二部

## 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際には、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主様は大切に保管してください。

(表紙写真)

カーテンレール

「レガートプリモ

ダークマホガニー」

# トソー株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川一丁目4番9号

<http://www.toso.co.jp>

証券コード：5956



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。

